

6月10日から13日にかけてパシフィコ横浜にて大槻マミ太郎会頭の下、第120回日本皮膚科学会総会が総会としては初のハイブリッド形式で開催されました。いつもは次期開催担当施設の先生に学会印象記をお願いしているのですが、コロナ禍で今年は取りやめになったため、本稿で少し触れてみたいと思います。参加者数はまだ確認できていませんが、現地参加の先生も相当いらしたように思います。感染防御を考えて各会場の椅子は減らされていましたが、私が担当したモーニングセミナーや教育講演でほぼ満席のものもあり、ありがたく思うとともに、現地開催のメリットを改めて感じました。講演中には聞けない質問を終了後に演者に駆け寄って質問したり、久しぶりにお会いできた先生と立ち話ができたり、そして何よりなのは聴講者の反応を直に感じられることでした。「皮膚科レジェンドのアーカイブ掘り出し」では聴講していて皆と一緒に笑いが出るのが一体感があって心地良いものでした。人はつくづく繋がることで生きていくものなんだなと感じます。先達の先生方、お元気で引き続き我々を導いてください。

会頭講演は「語ら猿（語らざる）会頭講演」の題目から、大槻先生お得意のピアノ演奏であることは容易に想像できたのですが、演奏中にスライドを上映するというひと工夫があって、大槻先生が歩んでこられた皮膚科人生が凝縮されていました。東日本大震災やコロナ対策奮闘などの写真がユーミンなどの曲とともに上映されると思わずウルウルしてしまいました。今もユーミンの曲を聴きながらこの原稿をしたためています。戸倉先生を中心としたデルマトオーケストラは今回3回目ということですが、日皮総会での開催は初めてでした。天は二物を与えるんですね。次回の演奏も楽しみにしています。

一方でWeb開催の良さもあります。今年は昨年と違って同時に複数の会場に入ることにはできないシステムになっていたようですが、部屋に居ながら聴講できるメリットは現地参加でもあります。朝早くまで部屋から出るのが大変とか、締め切りに追われた原稿を書きながら聴講したいときなどはWeb参加が便利でした。

演題としてはやはりゲノムやAIに関するものが増えてきたように思います。皮膚科もこのトレンドに乗り遅れないようにしながら既存の知識、技術との共存、融合を図っていく必要があるでしょう。来年は愛媛大学佐山会頭の下、京都での開催となりますが、新緑を楽しみつつマスク無しで皆さんとお会いできることを願っております。

(五十嵐敦之)

## — 問 題 —

大原國章 大塚藤男

## — 編集委員 —

土田哲也 五十嵐敦之 相馬良直 林 伸和 佐伯秀久

### 「皮膚科の臨床」第63巻 第8号 7月号

2021年7月1日発行（毎月1回1日発行）

定価 3,080 円（本体 2,800 円＋税 10%）

年間購読料金

定価 47,630 円（本体 43,300 円＋税 10%）

〔年間13冊（臨時増刊号、増大号を含む）の誌代〕

〔年間予約購読者に限り送料無料〕

発行所 金原出版株式会社

発行者 福村 直樹

〒113-0034 東京都文京区湯島 2-31-14

TEL 03(3811) 7165〔編集室直通〕

TEL 03(3811) 7184〔営業部直通〕

FAX 03(3813) 0288

ホームページ <http://www.kanehara-shuppan.co.jp>

振替口座 00130-1-191269

印刷所 三報社印刷株式会社 TEL 03(3637)0005

広告申込先 福田商店 TEL 06(6941)5600

- ・本誌に掲載する著作物の複製権、翻訳・翻案権、上映権、譲渡権、公衆送信権（送信可能化権を含む）、貸与権、二次的著作物への利用に関する原著作者の権利は、金原出版株式会社が保有します。

#### ・JCOPY＜出版者著作権管理機構 委託出版物＞

本誌の無断複製は著作権法上での例外を除き禁じられています。複製される場合は、そのつど事前に、出版者著作権管理機構（TEL：03-5244-5088、FAX：03-5244-5089、E-mail：info@jcopy.or.jp）の許諾を得てください。